

地方大学で学ぶことの意義

共愛学園前橋国際大学

国際社会学部 国際社会学科

堀越 丈稀（ホリコシ トモキ）

1. 自己紹介



堀越 丈稀 (ホリコシ トモキ)

共愛学園前橋国際大学 国際社会学部

情報・経営コース 4年

学生ボランティア団体「共愛COCO」リーダーチーム

村山ゼミ所属（経営学・ビジネスモデル論専攻）

始動人Jr.キャンプ 大学生メンター選出

「群馬で学ぶ」「前橋市で学ぶ」を履修済

出身地：群馬県伊勢崎市

卒業後：群馬県企業に就職希望

趣味：筋トレ、古着屋巡り、スニーカーコレクション

一言：3年間、地域と関わる活動に参加しました。

本学の魅力や、地域と関わる活動の魅力を存分に
伝えられるように頑張ります！

2. なぜ「共愛学園前橋国際大学」を選んだのか

1 県内国公立大学のすべり止めだった

元々、家庭の都合で県内の大学から選ばなくてははいけなかった。そのため、県内国公立大学の高崎経済大学を志望していたが、叶わず本学に進んだ。しかしマイナスな進学ではなく、資格特待生制度や奨学金制度の充実さ・興味がある分野であった経営学が学べるということで、**プラスな気持ちで進学**した。

2 「ちょっと大変だけど、実力がつく大学」というフレーズ

私は、今まで周りよりも厳しい環境に身を置いて生活をしていた。そして、同じ志を持った仲間や先生たちに恵まれ、心身ともに成長してきた。そのため、大学生になっても**周りも頑張っている人であふれている**大学だと分かるこのフレーズに惹かれて、進学を決意した。

3 地域密着型の大学のため、県内就職が強い

本学では、地域密着型の授業や学生プロジェクトが存在している。授業や学生プロジェクトでは、多くの企業や自治体が本学に関わっているため、**企業と大学の信頼関係が構築されている**。そのため、県内企業や自治体の就職の幅がとても広く、卒業後も多くの卒業生が群馬県を支えている。

3. 私が力を入れた地域活動「共愛COCO」

授業概要

共愛COCOは本学の学生プロジェクトであるが、以前は授業であり、大学からも認められている教育的な要素を多く持つ活動である。2015年からみなかみ町藤原地区にある平出集落という地で活動を行っている。活動をするうえで、「**地域の孫になる**」を念頭に、ボランティア活動だけではなく、地域課題の解決を目指して活動を行っている。また、団体活動を発信するために、学内外問わずイベントに参加し、認知拡大を図っている。



活動拠点について

私たちは、みなかみ町藤原地区平出集落という限界集落で活動を行っている。集落世帯は**12世帯**のみで、災害級の雪が降る厳しい気候の中で生活するために住民たちが協力して暮らしている。また、みなかみ町は全国で10か所しかないうちのひとつである**ユネスコエコパーク**に登録されており、人と自然と動物が共存している。そのため、ボランティア活動の意義のほかに、大自然で学ぶという意義がある。



4. 共愛COCOの主な活動「みまもり隊」



春・夏の作業



秋・冬の作業

私たちは、地域の孫になるために「みまもり隊」という活動を行っている。みまもり隊では、地域リーダーのお宅を拠点に、地域住民の方のお手伝いを行う活動である。学生が4～5人程度で1台の車に乗り合わせて、拠点に向かう。はじめに、集落のお宅を訪ねる戸別訪問を行い、挨拶をする。この戸別訪問が、学生と集落の信頼関係構築の土台となっている。続いて、ボランティア活動では農作業と雪かきがメインとなっている。その他、道路の清掃や花植え作業などを通して、集落の景観保護活動を行っている。これらの活動は、単なるボランティア活動ではなく、地域とつながり孫になるための活動である。メンバーはボランティアに行くという感覚ではなく、おじいさん・おばあさんに会いに行く感覚で訪れる。

5. 共愛COCOを通しての「学び」

1 ボランティア精神が育つ

みまもり隊の活動を通して、ボランティア精神を育むことができる。お手伝いが終わった後に、ありがとうと一声いただくだけで心がとても暖かくなり、ボランティア活動のすばらしさを知ることができる。そのため、メンバーは共愛COCO以外のボランティアにも積極的に参加している。

2 大自然というフィールドで非日常的な体験ができる

みなかみ町は、ユネスコエコパークに登録されており、大自然を感じることができる。平出集落では、文字通り人と自然と動物が共存しており、作業中に猿やシカなどの動物が平然と歩いている。そのため、学生は普段体験することができないような、非日常的な体験を通して、多くの刺激を得ることができる。

3 現実的な地域課題を目の当たりにすることができる

活動拠点である、平出集落はあと10年で消滅してしまう可能性がある地域である。私たちは、学生では解決をすることができない、「少子高齢化問題」や「地方の人口減少問題」などとリアルに向き合っている。つまり、現在の社会問題をただニュースや授業などでとらえるのではなく、リアルで向き合うことによって、課題の大きさや重大さを深く理解し、問題意識を高めることができる。

6. 共愛COCOでの発信活動

MED GUNMA 2024



本イベントは、いのちの場から社会をよくしようと志す者たちが、想いと行動をプレゼンテーションに凝縮し、社会に発信する場である。社会をよくするためのアイデアや発想を生み、それを育て、さらなる行動や次なる活動に結び付けていくことが目的である。私たちは、みまもり隊のような**過疎地域にアプローチをし続ける意義**を発信した。

群馬県未来構想フォーラム



本イベントは、群馬県、各市町村がこれからどうなっていくのか、県民と関係団体などのみんなで考え、ディスカッションを行うイベントである。私たちは、みまもり隊のような活動を学生だけではなく、**県が積極的に行っていく意義や必要性を県知事にプレゼンした**。本イベントの結果、県庁職員とのコネクションを構築することができた。

オフキャンパス報告会



この報告会は、学習評価・教育開発協議会加盟7大学の学生チームがボランティアやサービ斯拉ーニング等の教室外での経験に基づいた学びについて発表し、意見交換を通して学びを深め合うイベントである。私たちは、全体で**2位の評価**をいただき、みまもり隊をはじめとした共愛COCOの活動を他大学にも発信することができた。

7. 地域で学ぶ経験から影響を受けた私の学び

1 ゼミ活動でのビジネスプラン構想のヒント

私は、ビジネスモデル論専攻のゼミに所属しており、ビジネスプランを群馬イノベーションアワードに提出する課題があった。その際に、共愛cocoの活動からヒントを得て、**過疎地域に目を向けたビジネスプラン**を構想することができた。群馬イノベーションアワードでの表彰はされなかったが、担当教員からの成績では最高評価をいただくことができた。

2 みなかみ町以外の地域への興味・関心が深まった

私は3年次、「群馬で学ぶ」「前橋市で学ぶ」という学外に出て、フィールドワークを行う授業を履修した。それぞれ、桐生市と前橋市の**地域課題解決をするには何ができるか**を考える授業であった。その際に、共愛cocoの活動の経験を活かすことができた。授業最終日にはともに、地域の企業の方や、県庁職員の方などにプレゼンを行い、フィードバックをいただくことで学びを深めることができた。

3 卒業後のビジョンの確立

私は、大学1年次は卒業後県内に残るか、県外で実力をつけるか悩んでいた。この3年間を振り返ると、群馬県で様々な人と関わり、多くの学びを得ることができた。その結果、群馬県への愛着が増して、**地域を支える人材になりたい**という考え方に確立されていった。そして、将来は群馬県から全国・世界に活躍をアピールできるような存在になっていこうと考えている。